

四、交通安全
環境の整備

幹線道路等では、円滑な交通流の確保と交通事故を防止し、一方、小学校、幼稚園を中心としたスクールゾーン、住宅地域を中心とした生活ゾーン内では、歩

行者、自転車利用者等の保護と人間優先の良好な環境づくりのための施策が進められています。

対策の主なもの、歩車道分離、歩道

事故事例

同窓会の酒はうまかったが
二次会行きがあの世行きに

県外に就職している会社員のAさんは、盆で帰省したある一日、中学校の同窓会

に出席しました。同窓会は町内にある料理店で夕方から同級生十五人ぐらいが集ま

って開かれました。久しぶりの会合に思い出話しに花が咲き、盃をかわし合っているうち歌も出るなど賑やかな雰囲気になりました。その場は約三時間が閉会になりましたが、いまから「遊びに出よう」と話がきまり、Aさんは相当酒を飲んでいたので、用心すれば大じょうぶと思っ

たB、C、Dさんを自分の普通乗用車に乗せM市内へ向け出発しました。曲りくねった山間部の道路を約四十分ばかり運転したあと国道に出ましたが、国道は車の通りも少なく、ほろ酔い気分の

この事故でAさんと対向車のKさんとは、自分の車が左カーブで中央線を越えて走っているのに気付かず、対向して来たKさん運転の普通乗用車と衝突してしまいました。

この事故でAさんと対向車のKさんとは、同時に運転席に押しつぶされ頭の骨を折ってしまいました。知らせでかけつけた救急車やパトカーの人がAさん、Kさん、その他の人を救出し近くの病院へ収容しましたが右後部座席に同乗していたBさんは首の骨を折り間もなく死亡し、Aさん、Kさんも翌日死亡しました。さらにC、Dさんもそれぞれ顔、頭などに重傷を負ってしまいました。

この事故は、Aさんが酒に酔い正常な運転ができなくなったのに運転を続けたために起きたものと思われま



(熊本日日新聞社提供)

▲事故現場

たが、国道は車の通りも少なく、ほろ酔い気分の

改めて飲酒運転のおそろしさが痛感されます。

等

の設置、段差改良など道路の整備、防護柵、カーブミラー、信号機、道路標識等の設置など交通安全施設の整備、速度制限、追越し禁止、駐車禁止などの交通規制が柱となります。

交通安全対策基本法に基づき昭和四十六年を初年度とする五ヶ年計画では、このような道路の整備や交通安全施設の整備におよそ七億七千万円が投入されています。

おわりに

以上のように、交通安全と円滑を確保し人間優先の生活環境づくりのための諸施策をすすめているにもかかわらず、悲惨な交通事故の犠牲者は後を断ちません。

交通事故の防止の根本策は何と申しましても、道路を利用する一人ひとりが交通安全意識にめざめ、正しい交通ルールを実践することではないかと思

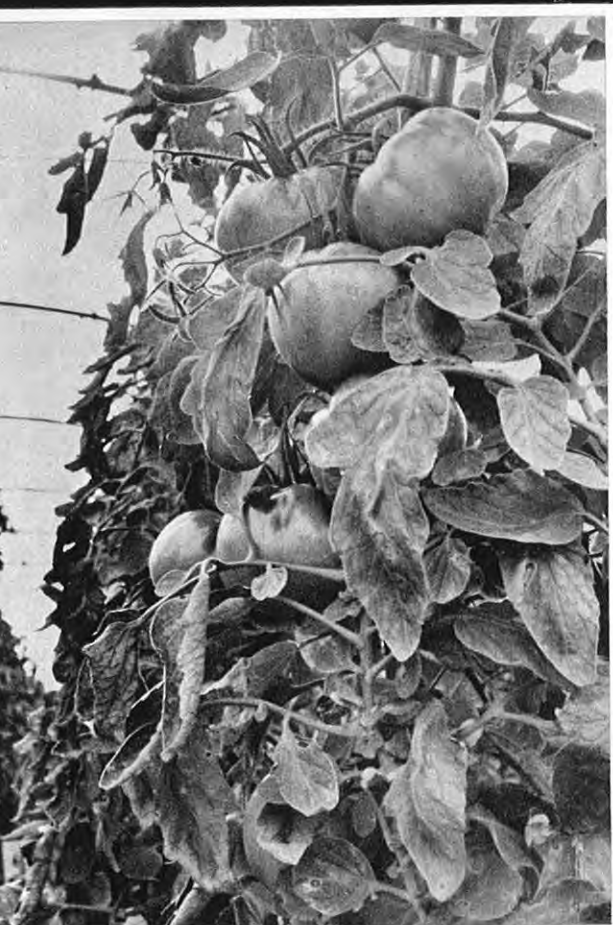


生産日本一 ふたつの話題

冬トマト
イ草

トマトは、夏の味覚として私達に親しまれてきましたが、今では年中見かけられるようになりました。特に冬トマトは生産高一万一千トン(共販分八千二百トン・二十二億円)と日本一を誇っております。主に八代・宇城地方で栽培されていますが、去年より導入された新品種「ゆうやけA」は、従来の冬トマトに比べて病気に強く、上質であるところから大変喜ばれています。

また、熊本県のイ草作付面積は五千ヘクタール(生産額百六十億円)と全国の六割を占め日本一のイ草生産県となっています。県農試八代支場では作期拡大による労力の軽減を目的として、四十二年から「岡山三号」を素材に早刈り用イ草の開発に着手、栄養分離育苗法により良品種の選抜に成功「熊本一号」と命名しました。新品種は刈り取りが六月上旬の端境期になるところから商品価値も高く、跡作である水稲の田植時期にも支障がないなどの利点があり、今後飛躍的な普及が見込まれています。



▲ほぼ10月～1月にかけて出荷される冬トマト



▲イ草の植付け。円内の写真は左側が新品種の「熊本1号」右側の「岡山3号」とは背丈の伸びが違います。